

2011年3月期第二四半期決算 事業報告会資料

2010年11月18日

**戸田工業株式会社
戸田工業グループ**

目次

2011年3月期第2四半期事業の業績(連結)		今後の事業展開	
2011年3月期第二四半期 連結業績	4	経営方針	12
業績の特徴	5	機能性顔料事業のトピックス(1)	13
セグメント別売上高	6	機能性顔料事業のトピックス(2)	14
2011年3月期第二四半期 貸借対照表科目	7	電子素材事業のトピックス(1)	15
貸借対照表科目の特徴	8	電子素材事業のトピックス(2)	16
主な連結子会社の状況	9	エンジニアリング事業	17
設備投資・研究開発・減価償却	10		
		電池材料事業の取組みについて	
		リチウムイオン電池材料マーケットと目標	19
		正極材料の生産拠点	20
		正極材料の技術動向	21
		戸田工業の正極材料の開発	22

2011年3月期第二四半期 事業の業績（連結）

2011年3月期第二四半期 連結業績

(単位：百万円)

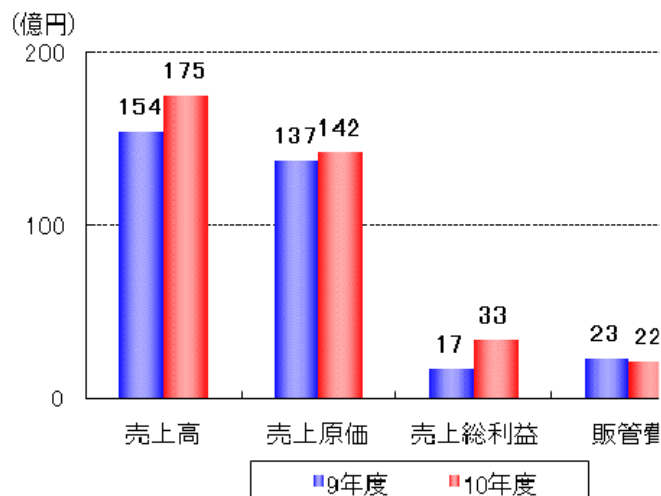
損益	10年3月期 第二四半期	11年3月期 第二四半期	前年同期比
売上高	15,362	17,494	114%
売上原価	13,708	14,159	103%
売上総利益	1,653	3,335	202%
販管費	2,260	2,154	95%
営業利益	△ 607	1,180	-
経常利益	△ 892	695	-
純利益	△ 912	346	-
1株当たり 純利益(円)	△ 20.26	7.70	-

業績の特徴

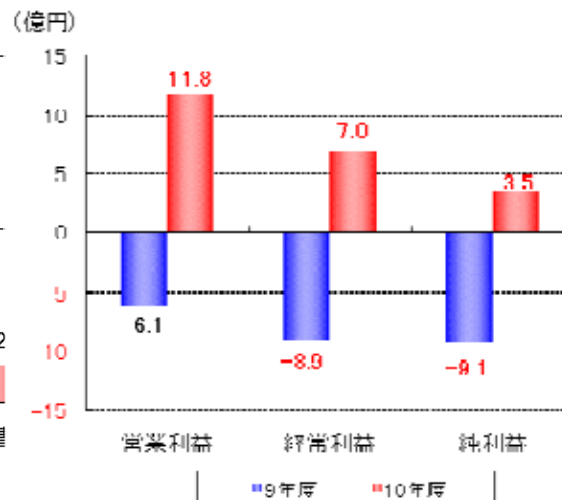
特徴

- リーマンショックからの回復が鮮明となり、売上高は3年振りに増収となり、前年同期比+14%となりました。また、営業利益率についても、赤字から+6.7%へと大きく改善することが出来ました。
- リチウムイオン電池の正極材料を始めとする新商品の拡販や徹底したコストの削減、稼働率の向上により、売上原価率を対前年8.3ポイント改善させるとともに、販管費も対前年5%低減させる事ができました。
- 以上の結果、営業利益は11億80百万円、経常利益は6億95百万円、純利益は3億46百万円となりました。今期に入ってから急激な円高の進行による為替差損が発生したにも拘わらず、前年の赤字成績から黒字転換を図ることができました。

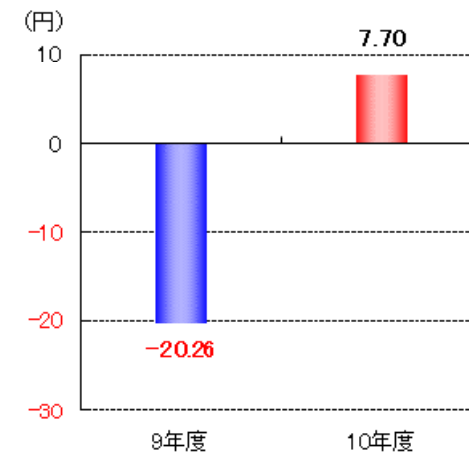
売上高、販管費等



利益



一株当り純利益



セグメント別売上高

(単位：百万円)

セグメント	10年3月期 第二四半期	11年3月期 第二四半期	前年同期比	包含事業
機能性顔料事業	5,630	6,927	123%	電子印刷材料、磁気記録材料、顔料、 ダイオキシン抑制触媒/コンパウンド など
電子素材事業	5,826	8,016	138%	電池材料、電磁環境部品/材料、 磁石/磁石材料、電子印刷部品、 半導体装置、塩化ビニール安定剤 など
エンジニアリング 事業	3,905	2,550	65%	環境エンジニアリング、 土壌浄化用触媒 など
合計	15,362	17,494	114%	

1. 機能性顔料事業は、リーマンショックから販売が回復するとともに新製品の展開も加わり、対前年+23%の大幅な増収となりました。
2. 電子素材事業は、電池材料の急回復を始めとした販売の回復を受けて、対前年+38%の大幅増収となりました。
3. エンジニアリング事業は、引き続き設備投資の低迷により、対前年 35%の減収となりました。

2011年3月期第二四半期 貸借対照表科目

(単位：百万円)

貸借対照表科目	10年3月期 第二四半期	11年3月期 第二四半期	増減
流動資産	19,341	23,514	4,173
固定資産	33,040	32,453	△ 587
流動負債	20,253	21,090	837
固定負債	12,175	13,187	1,012
少数株主持分	380	379	△ 1
株主資本	20,149	22,217	2,068
総資産	52,381	55,968	3,587
現金/同等物	3,851	6,763	2,912
キャッシュフロー	△ 3,116	180	3,296
ROE (%)	△ 9.1	3.1	12.2

(注)ROEは株主資本合計に対して計算したものです。(年換算)

貸借対照表科目の特徴

1. 前年度下期から回復した純利益の黒字化により、株主資本が前年同期より + 20億6,800万円増加し、自己資本比率が0.7ポイント改善して38.1%となりました。
2. 流動資産は前年同期より + 41億7,300万円増加しています。売上の回復に伴う売上債権の増加、現預金等の増加が主な内訳です。
3. 固定資産は、設備投資も行いましたが、利益拡大に伴う繰延税金資産の取崩しが主要因となり前年同期より 5億8,710万円減少しています。
4. 負債は流動と固定の合計で18億4,900万円増加しています。設備投資等への資金の借入を増やした事が主たる要因です。
5. 現金/同等物残高は、前年同期と比べて + 29億1,200万円増やしており、キャッシュフローにおいても + 32億9,600万円増加しています。
6. 純利益の黒字化で、年換算のROEは + 3.1%となりました。

主な連結子会社の状況

(単位：百万円)

会社名	売上高		経常利益		決算期
	10年3月期 第二四半期	11年3月期 第二四半期	10年3月期 第二四半期	11年3月期 第二四半期	
富士化水工業株式会社	3,962	2,595	102	△ 208	12月末
戸田マテリアル株式会社	817	3,450	△ 92	185	3月末
戸田ピグメント株式会社	743	681	58	8	3月末
東京色材工業株式会社	583	1,098	74	236	3月末
戸田工業ヨーロッパ GmbH	355	476	35	6	3月末
戸田塑磁材料(浙江)有限公司	276	566	22	71	12月末

【増収増益】

1. 東京色材工業(株)は、顔料の業容拡大が進んでおり大幅な増収増益となっています。
2. 戸田マテリアル(株)は、自動車向け銘柄の本格的な立上げにより、売上は大幅な増収となり、経常利益も黒字転換致しました。
3. 戸田塑磁材料(浙江)有限公司は、中国国内の堅調な需要に支えられて増収増益基調を継続しています。

【減収減益】

1. 戸田ピグメント(株)は、円高による低価格帯での海外勢攻勢もあり苦戦しました。
2. 戸田工業ヨーロッパ GmbHは、電池材中心に売上をのばしています。
3. 富士化水工業(株)は、景気回復傾向のなか民間設備投資の動きは鈍く、売上が伸び悩んだ事に加え、工事の採算も悪化しており、大幅な減収となり遺憾ながら経常赤字となりました。

設備投資・研究開発・減価償却

(単位：百万円)

	10年3月期 第二四半期	11年3月期 第二四半期	前年同期比
設備投資	1,269	1,370	108%
研究開発	733	807	110%
減価償却	1,092	1,128	103%

1. 設備投資の主な内容は、リチウムイオン電池材料の増産設備です。今後の需要動向を踏まえ、タイムリーな設備投資を継続してゆきます。
2. 研究開発費は、開発のタイミングを逃さぬよう、対前年+10%程度増やしています。新規事業の開発に重点配分します。
3. 減価償却費は、前期までの投資設備の稼働開始で、対前年+3%の増加となっています。

今後の事業展開

2010年11月18日

戸田工業株式会社

1 . 電池材料事業の成長と強固な事業基盤の確立を図る。

2 . 既存事業分野への新規商品の投入による事業活力の増強を図る。

3 . 事業体質と事業展開の効率化を強力に推進し、
財務体質を始めとした経営体質の一層の強化を図る。

4 . 経営目標のレベルを先ず着実に達成することを目指す。

【 経営目標レベル 】

売上高 500億円

営業利益率 5%以上

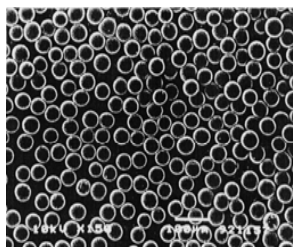
機能的顔料事業のトピックス(1)

電子印刷材料

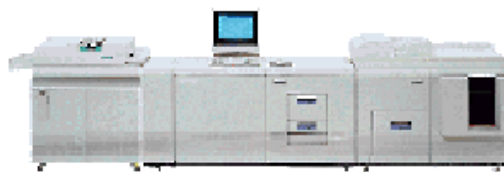
【カラートナー用キャリア】

当社のカラートナー用キャリアは画質性、耐久性で非常に高い性能を有し、販売が急加速しています。

電子写真方式によるカラー印刷は、オフィスからPOD(Print On Demand)等業務用として拡大していますので、この分野への拡販を目指します。



カラートナー用キャリア



POD機

磁気記録材料

【デジタル磁気記録材料】

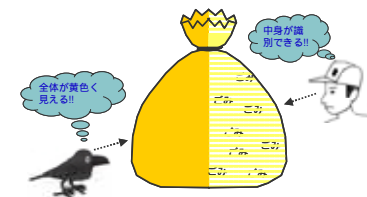
データテープ用のデジタル磁気記録材料として、より微粒子化、高機能化された記録材料を開発しています。あわせて、次世代の新規磁性材料の研究開発も進めてまいります。

環境機能材料

【ダイオキシン抑制コンパウンド(TIC)】

ダイオキシン抑制ごみ袋用コンパウンドは、市町村を中心として安定した需要が継続しています。カラス対策ごみ袋用コンパウンドは、NHKや各種メディアでも紹介され需要が拡大しています。

波長を利用した黄色系ごみ袋の内容物の識別想定図



機能性顔料事業のトピックス(2)

顔料

【リップスティック用高級顔料】

新しい色調を生む色彩豊かな顔料が、リップスティックに乗り、世界中の女性を喜ばせています。

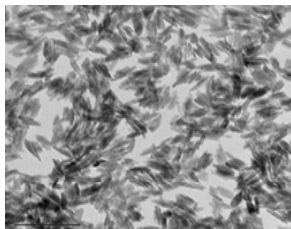
新たにファンデーションにも採用されました。

先端技術を駆使した顔料が、新しいウェーブになることを期待しています。



【高性能透明顔料】

有機顔料を超える対候性を有する透明酸化鉄顔料を開発しました。自動車用を始めとし販売が膨らんでいます。



【高反射顔料】

建物の屋根などに塗ることにより太陽光を反射して温度上昇を防ぐ高反射顔料を開発しました。ヒートアイランド対策として、今後の拡販が期待されます。



【道路レーン標示用無鉛顔料】

環境に優しい無鉛顔料による黄色のセンターラインが、東京都等から採用されています。



【アスファルト用着色バインダー】

色彩性、施工性に富んだCSファルトによる舗装工事方式を開発しました。工事施工の効率化が期待されます。



電子素材事業のトピックス(1)

電池材料

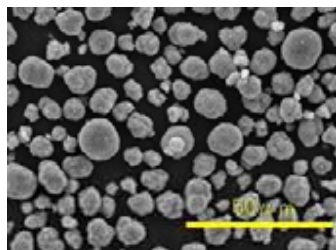
【リチウムイオン電池材料】

時代の流れと市場ニーズを先取りしたリチウムイオン電池用正極材料の開発と商品化に力を注いでいます。

すでに生産・販売しているコバルト系とニッケル系に加え、三元系、マンガン系、鉄系リチウムイオン電池用正極材料をラインアップに加え、市場展開中です。

全ての材料を開発出来るところが、当社の最大の強みです。

(商品群)
コバルト系
ニッケル系
マンガン系
NCM(三元系)
鉄系



NCM(三元系)

【燃料電池用改質触媒の開発】

燃料電池は、地球温暖化防止の切り札の一つとして期待されています。培ってきた基盤技術を活かし、燃料改質触媒の開発に力を入れています。近い将来の商品化が期待されています。

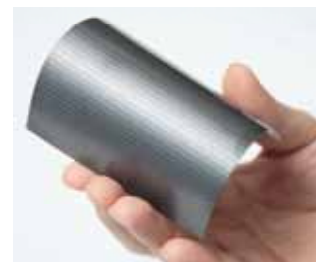


燃料改質触媒

電磁環境

【アンテナ用基板】

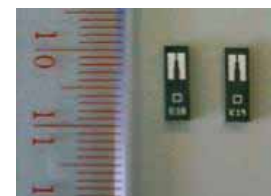
R F I D通信に使用されるアンテナの感度を向上し、通信距離が拡大するフェライトシート基板を量産しています。従来使用されていた金属磁性粉のシートに比べ優れた材料特性を持つことから、おサイフケータイ等に採用されており、今後は海外の携帯電話メーカーへの採用も期待されます。



アンテナ用シート

【ICタグ用アンテナ材料】

当社のフェライト材料技術をベースに、超小型で交信距離や耐熱性に優れ、金属表面でも作動し、ハンダでも実装できるという、他社品には無い特長をもつICタグを開発し、国内外への販売を開始しています。特に、他の電子部品と同時にプリント基板に実装し、製造管理や偽造管理に使用されたり、今後大きな需要が期待されます。



IC TAG

電子素材事業のトピックス(2)

磁石材料

【ネオジコンパウンド】

中国・天津市にマグネクエンチ・インターナショナルINC (MQI社)との合弁で戸田麦格昆磁磁性材料(天津)有限公司を設立し、ネオジ系射出コンパウンドの生産を08年度から開始いたしました。MQI社のパウダー技術と当社のコンパウンド化技術により、コスト競争力と高品質を兼ね備えた希土類コンパウンドの安定供給が可能となり、自動車用部品・高効率モーターなどの分野への販売が拡大しています。



磁石用ペレットの例

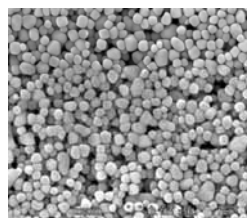
新開発素材

【コンデンサ用誘電体材料】

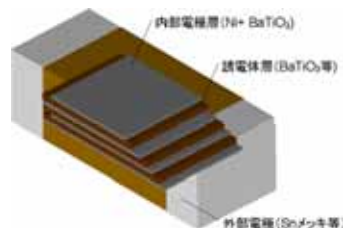
携帯電話等で数多く使われる小型高性能チップコンデンサを実現するために、ナノ誘電体材料(チタン酸バリウム)を製造しています。

当社の製品は、形状の揃った小粒子ですので、分散性が高く、薄層化・高積層化に最適で、結晶性も高いため、高誘電率を確保できます。

市場の伸びも期待される中で、当社製品の特徴が認められ、スマートフォン向けに需要が拡大してきたため、プラントを増設し拡販に努めています。



チタン酸バリウム(100nm)



【塩化ビニール安定剤】

電気ケーブルの被覆、上下水道用塩ビパイプ等の無鉛化が進んでおり、使用される安定剤としては、カルシウム亜鉛系安定剤への置き換えが加速しています。

当社の塩ビ安定剤NAOXシリーズは、そのニーズにベストマッチしており、急速に需要を伸ばしています。

【光学フィルター用電磁遮蔽材料】

銀ナノ粒子を自己組織化させる機能を有した新規材料は、塗布・乾燥工程のみで、ナノ銀のランダムなメッシュ模様を形成します。

従来の規則的な格子状のメッシュを使った電子遮断材料に対して、製造の効率化を図ることが出来ます。また、メッシュの形状に規則性が無いため、モアレを生じないという利点を持っています。

ゲーム機などの普及と共に、銀ナノ粒子の販売を大きく成長させます。



自己配列する銀ナノ粒子



膜を転写後に成形したフィルム

エンジニアリング事業

廃ガス処理

【モレタナ式スクラバー（脱硫、脱硝）】

モレタナ式スクラバーは、空塔速度が速く、装置が小型で少スペースです。内部構造が簡単で、メンテナンスフリーです。また、ダスト除去も可能で、脱硫・脱硝装置として高い評価を得ています。



廃水処理

【トルル水処理装置】

嫌気性高負荷処理装置で排水を処理します。活性汚泥法に比較して、動力費が1/5～1/10になります。また、好気性処理に比較して、汚泥発生量が1/3～1/10になります。



【ヘルディバイオ水処理装置】

フッ素、貴金属を高度に安定化する能力を有しています。従来工法に較べて、汚泥発生量を半減、ランニングコストを半減することが可能です。



土壌処理

【土壌・地下水浄化ソリューション】

戸田工業の製造するRNIP（塩素含有有機物浄化触媒）とAMH（重金属不溶化剤）を技術の中心に据えて土壌浄化事業に取り組んでいます。富士化水工業では土壌汚染の調査から対策工事まで幅広くソリューションを展開しています。



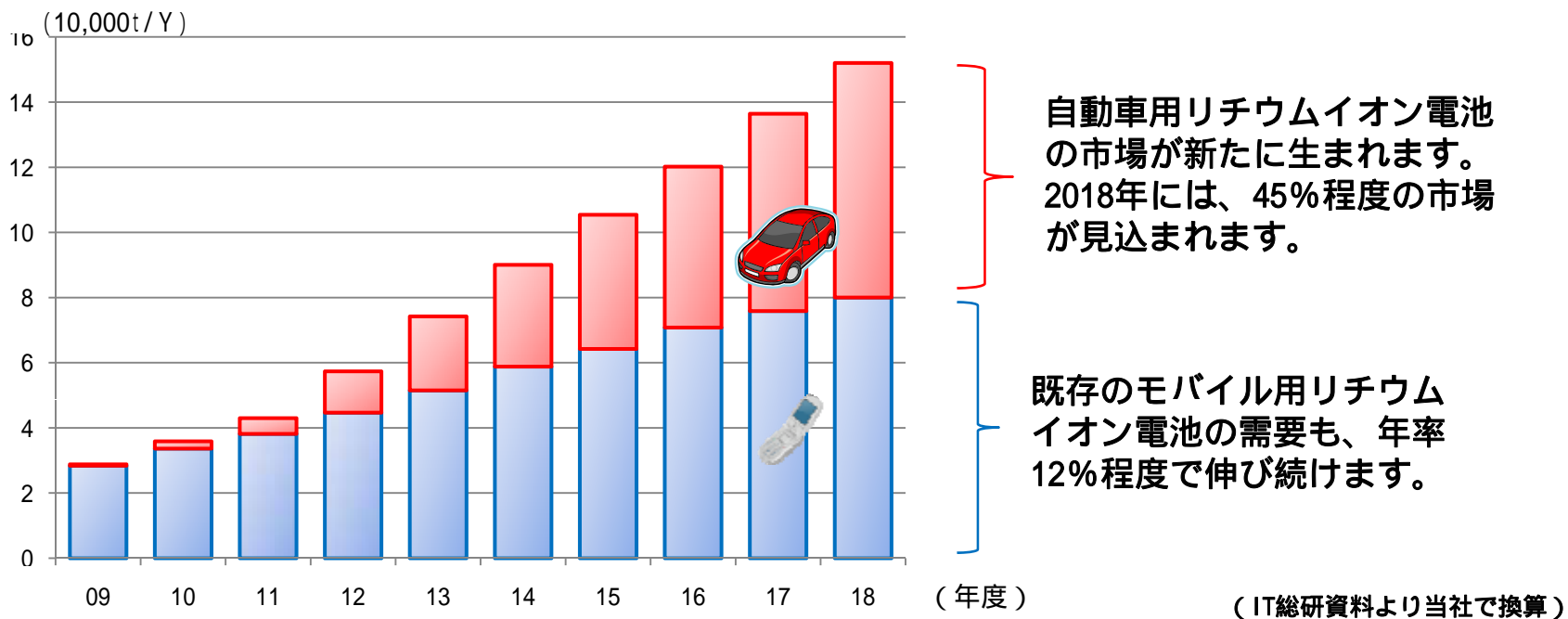
電池材料事業の取組みについて

リチウムイオン電池材料マーケットと目標

1. リチウムイオン電池の市場は成長を続けます。

- (1) 電気自動車(EV・HEV)へのリチウムイオン電池の搭載が始まりました。
- (2) スマートグリッド、太陽電池等、社会インフラへの導入も一斉に検討、試験が始まっています。
- (3) 総合すると、リチウムイオン電池正極材料の市場は、年率20%程度の成長が期待されます。

2. 戸田工業は、2012年度迄に6,500tの正極材料の販売を目指します。



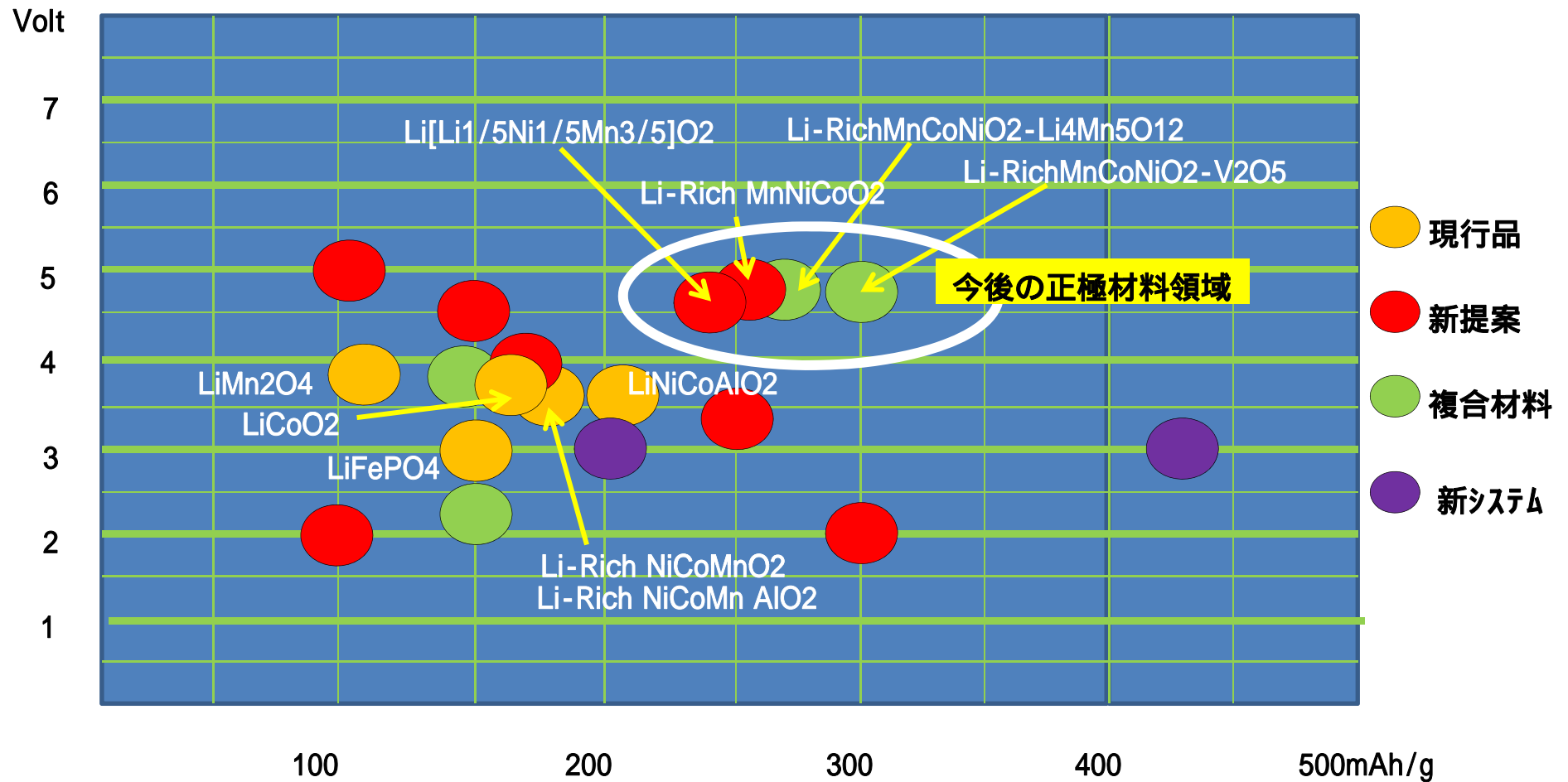
正極材料の生産拠点

日本、米国、中国の電気自動車、ハイブリッド電気自動車の市場に向けて、正極材料ビジネスの基盤を強化して取組みます。

会社名	拠点	特徴
戸田マテリアル(株) 小野田工場	山口県山陽小野田市	生産品目：ニッケル系、マンガン系、三元系
戸田マテリアル(株) 北九州工場	福岡県北九州市	生産品目：ニッケル系、三元系
戸田アメリカINC.	米国ミシガン州 バトルクリーク市	生産品目：ニッケル系、三元系
戸田アドバンスト マテリアルズINC.	カナダオンタリオ州 サーニア市	生産品目：正極材料のプリカーサー
中国	寧波	生産品目：コバルト系、マンガン系、三元系

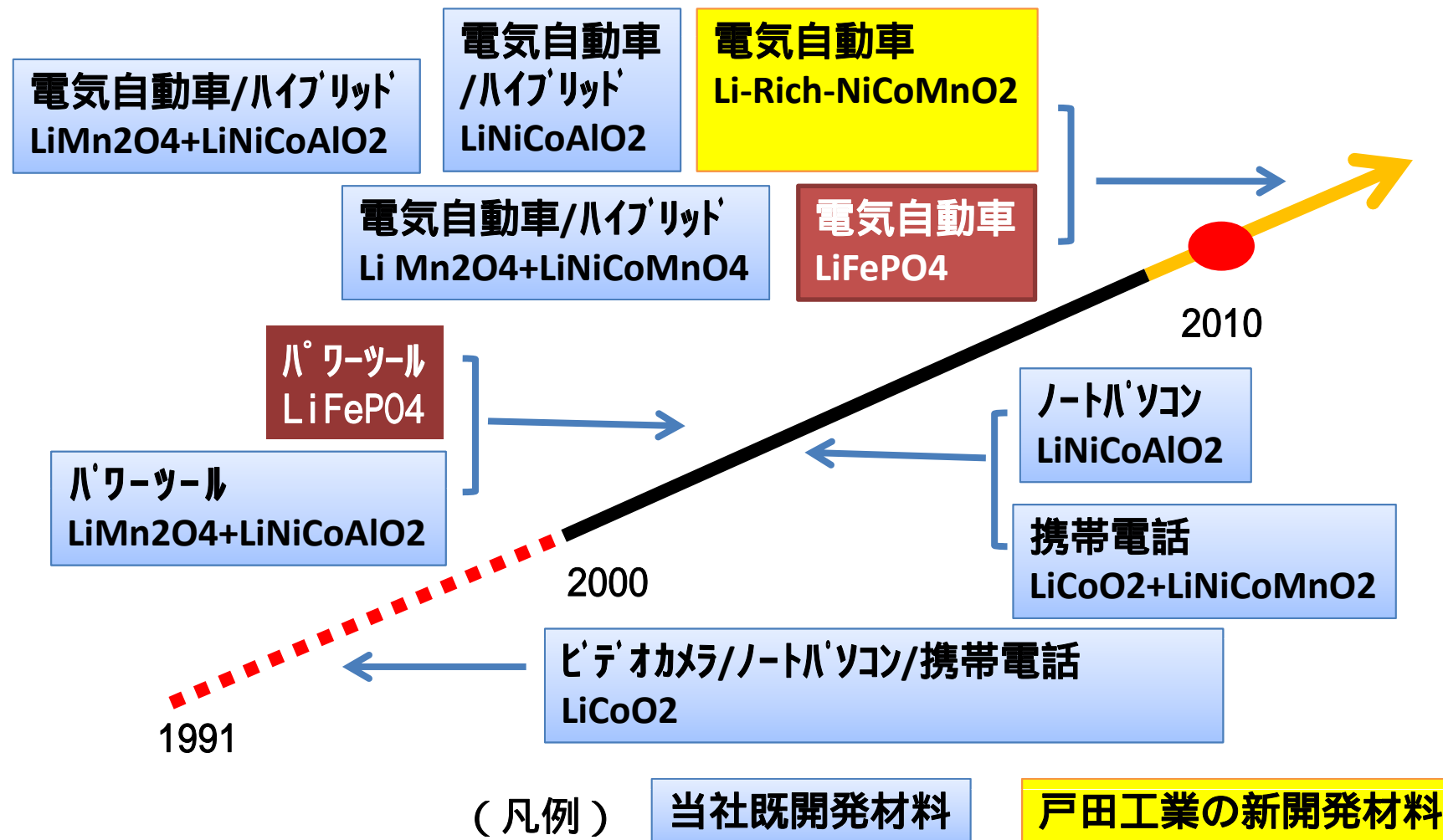
正極材料の技術動向

正極材料は、高い電極電圧、大きい充放電電流を求めて開発が進んでいます。リチウムリッチの材料が先端を走っています。



戸田工業における正極材料の開発

戸田工業は、パソコン用からEV用途、幅広く正極材料を提供してまいりました。現在では、リチウムリッチの材料開発を行い、将来の市場展開に必要な製品体制を整えるに至りました。



将来予測について

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づき算定しており、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる結果となりうる事を、ご承知おき下さい。

お問い合わせ先

戸田工業株式会社

常務取締役 経営企画本部長

高橋 精一

TEL 03 3433 2411

FAX 03 5404 7244

E-mail: Webmaster@todakogyo.co.jp